

会 議 録

会議名	令和4年度 第7回田名地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)	中央区役所 田名まちづくりセンター 電話042-761-0056 (直通)		
開催日時	令和4年11月15日(火) 19時00分～20時15分		
開催場所	田名公民館 大会議室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	2人(田名まちづくりセンター所長、地域政策担当)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 田名北小学校児童保護者へのアンケート結果について (2) まちづくりを考える懇談会について (3) その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(◎は会長の発言、○は委員の発言、■は事務局の発言)

1 開会

2 あいさつ (代田会長)

3 議題

- (1) 田名北小学校児童保護者へのアンケート結果について
事務局からアンケート結果について報告した。

(主な意見等)

○回答率21.3%の結果をどう見るかである。例えば、問3にあるような運営スタッフとして「協力しても良い」と答えた方が約半分であった。つまり回答率2割の半分の1割の方しか協力してもらえないということではないか。

■約2割の回答率は低いと言える。ただ、ご指摘の1割の方しか協力が得られないということについては、未回答者全員が「協力が難しい」という前提である。そのため、逆の見方をすれば、約8割の未回答者の中でも「(予定が合えば)協力しても良い」という方がいればもう少し増えることになると思う。

- (2) まちづくりを考える懇談会について

テーマを「自治会加入者や地域活動の担い手の減少について」とし、市との懇談に向けて意見交換をグループ毎に行った。グループで話し合った内容を12月のまちづくり会議役員会にて整理等を行い、第8回まちづくり会議定例会で確認することとする。

※敬称略

【A班】

篠崎 定夫 (自治会連合会)
渡邊 さよ子 (連合婦人会)
田所 恒男 (地区社会福祉協議会)
小島 昭二 (老人クラブ連合会)
矢口 君代 (田名地域包括支援センター)

【B班】

外岩戸 満里子 (連合婦人会)
江成 陽子 (民生児童委員協議会)
田所 昌訓 (田名財産管理委員会)
木下 國博 (青少年健全育成協議会)
浅見 泰子 (わかかな会田名地区)

(各班の主な意見等)

【A班】

(公共交通について)

- これまで田名地区では公共交通の課題について取り上げてきている。市のビジョンや協議会などの状況を聞きたい。
- 田名地区で新たな交通手段を検討できないか。
- 今後は高齢世代も増えることが予想されるので、鉄道ではなく、田名バスターミナルを拠点としたコミュニティバスが必要ではないか。
- 高齢者はバスの乗降も大変である。個別の支援も必要ではないか。
- 津久井の根小屋では乗合タクシーが走っていると聞いた。高齢者の免許返納後の交通手段は大きな問題である。
- 光が丘地区では福祉施設から車を借りて運行しているという事例がある。

(地域コミュニティについて)

- 田名地区の一部では移動販売をやっているが、利用状況はどうか。
- お客さんが固定化してきているため、啓発や呼び掛けが必要であると販売者と話をしている。
- 週2回キッチンカーが来るようになった地区がある。これは買い物して飲食するだけではなく、住民同士の集いの場にもなっている。
- 移動販売も同じで住民同士でおしゃべりできるのが良い。
- 高齢者の中には自治会館には行けるが、公民館までは行けない者も多い。コロナ禍で余計に外出する機会が減ってしまった高齢者もいる。
- 社協では「和い輪い田名」という地域の交流拠点を立ち上げたが、より小さい単位での集いの場を作っていく必要性を感じている。そのために空き家等の民間施設の活用を考えており、家賃補助や固定資産税の減免を市に検討してもらいたい。
- 過去のニュータウン構想では核となる施設を作って、そこを住民の集いの場としていた。これからは発想の転換が必要で、こちらから出張っていく必要がある。
- 小規模の集いの場が多くあった方が良い。
- 井戸端会議のようなものである。
- 自分の子どもの頃は近所の人たちが縁側でお茶を飲んでいるのが普通の光景だった。
- 住民同士が集まれる場所があることは、心を失わず人間らしく生きる上で大切なことだと思う。

(さがみはらポイント制度について)

- さがみはらポイント制度では、田名地区をモデル地区として色々と事業実施したが、すぐに終了してしまった。継続性が必要であったと思う。国の制度で終了してしまっただが、その後の市の検討状況はどうか。
- 主に自治会活動をポイント対象活動としていたが、それ以外の地道な活動も対象としていかないと担い手の育成にはつながらない。

(その他)

- 自治会はやることが少なくなっている。昔は市の広報紙を自治会員が配っていた。未加入世帯の勧誘も兼ねられるので、昔のように配付物を自治会に任せたらどうか。

【B班】

(シビックプライド条例について)

- シビックプライド条例については期待している。子ども会が解散してしまったように自治会も消滅してしまうのではないかと危惧している。市民意識の向上も必要である。市は地域住民に対して何を求めているのか、市民は市のために何が出来るとかということ市と意見交換してより良い方向に向かえば良いと思う。
- シビックプライドの向上には地域が活性化していることが必要である。では、市は地域活性化のために、どのような立場で支援してくれるか。市は色々なことを地域活動に求めてくる一方、市にとって都合が悪い時には地域活動を自主活動として消極的な対応となってしまっている。
- 市は広報等で市や区の魅力発信に取り組んでいるが、これで条例が求めているような市民行動につながるとは思えない。根本は地域づくりであり、現在の予算や仕組みがない中では地域活動は衰退する一方である。例えば、まちづくりセンターの機能を強化して地域で完結できるようにする、区長や副区長に権限をおろすという考え方もある。
- 田名には子どもにとって魅力あるものがない。
- 地域で自慢できるものがなければ、地域で作っていかないといけない。地域の力は絶対に必要で、これだけは行政や企業ではなく、地域住民である。

(地域コミュニティについて)

- 社協が地域の居場所作りに取り組んでいる。自分が田名に住み始めた頃には縁側にいた人が声をかけてきてくれた。今はそのようなことはない。そのため、月に1回は高齢者サロンを開催して高齢者の居場所作りを進められたら良い。

(公共交通について)

- 田名地区を良くするためには公共交通を充実してもらいたい。
- コミュニティバスを田名で走らせることはできないか。

(その他)

- 婦人会では役員の担い手がいなくて悩んでいる。田名地区以外での役員決めの方法等を聞いてみたい。
- 防犯灯の管理や市の広報紙の配布を自治会が担っていた。これらを自治会がやらなくなったことで自治会が何をやっているのか分からず、自治会不要論となり加入する者が減っている。
- これらの仕事は自治会の負担にもなっていたので、やらなくなったことで自治会負担の軽減につながったという考え方もある。

(3) その他

特になし。

4 閉会 (木下副会長)

以 上

令和4年度 第7回田名地区まちづくり会議委員名簿（敬称略）

令和4年11月15日

	団体名	役職	氏名	出欠
1	田名地区自治会連合会	会長	代田 修	○
2		副会長	花房 博文	
3		副会長	篠崎 定夫	○
4	田名自治会連合婦人会	会長	外岩戸 満里子	○
5		副会長	渡邊 さよ子	○
6	田名公民館	館長	大谷 政道	
7	田名地区社会福祉協議会	会長	田所 恒男	○
8	田名地区民生委員児童委員協議会	会長	江成 陽子	○
9		書記	首藤 幸治	
10	田名財産管理委員会	会長	田所 昌訓	○
11	田名地区公共交通整備促進協議会	顧問	志村 勝美	
12	田名地区防犯協会	会計	篠崎 隆司	
13	田名地区青少年健全育成協議会	会長	木下 國博	○
14	P T A 田名中学校区三校合同会議	代表（田名小学校 P T A 副会長）	平井 佑介	
15	田名地区老人クラブ連合会	会長	小島 昭二	○
16	J A 相模原市田名支店運営委員会	市農協理事	大谷 京子	
17	田名地区ボランティアグループ	代表（市食生活改善推進団体 わかな会田名地区）	浅見 泰子	○
18	田名地域包括支援センター	センター長	矢口 君代	○
19	有識者			

出席（○） 11

欠席（ ） 7

合計 18